

「宇沢弘文の社会的共通資本を再考する」

公共事業評価と社会的共通資本

小池淳司(神戸大学)

「人口減少社会では、東京以外に公共投資はいらない」

東京大学経済学部教授

「国土計画を復活すべきである」

土木学会会長

Sympathy

Empathy

共感

他者の視点の内面化

他力本願

公共事業評価: サミュエルソンの公共財最適供給

費用便益分析(B/C) :  $\Sigma$ 限界便益 =  $\Sigma$ 限界費用

仮説的補償原理(カルドア・ヒックス基準)

マスグレイベ主義(ヒックスによる楽観主義)

### 個人での購入の場合

「なぜ、ひとは物を買うのか？」



月額: 5,000円

それは、スマホを買って  
一か月5,000円以上  
うれしいから

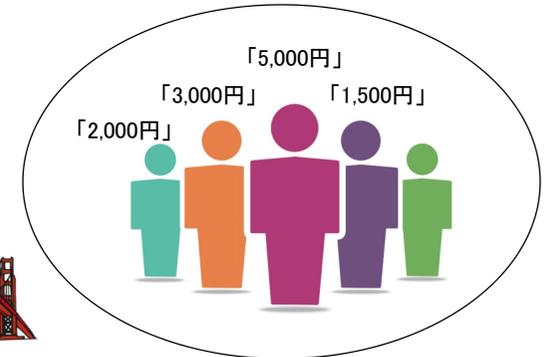
このうれしさを支払意思額という

### 社会(集団)での購入の場合

「なぜ、社会は橋を買うのか？(買うべきか?)」



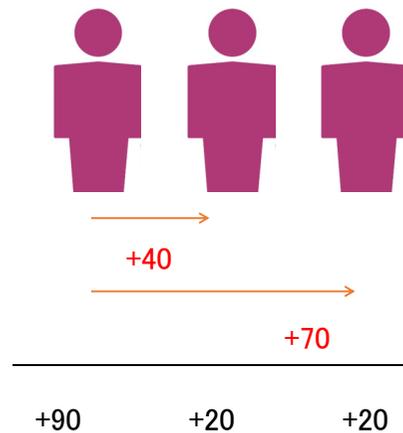
値段: 1億円



合計: 1.5億円

### 費用便益分析が想定している状況

250 - 50 = 200    30 - 50 = -20    0 - 50 = -50



### 仮説的補償原理

「もしもある経済政策の結果、適切な所得移転を行うことでパレート改善が可能であれば、たとえその所得移転が現実に行われなくとも、(あるいは、たかだか不完全にしか行われなくとも)その政策を社会的に容認すべきである。(Kaldor[1939])」

# マスグレイブ主義

- ・資源配分機能
- ・所得再分配機能
- ・安定化機能

Musgrave(1959)

宇沢弘文の社会的共通資本の最適供給とは？

「公共経済に関するノート」, 季刊現在経済, 1971,72,74.  
「宇沢弘文の経済学」, 日本経済新聞社, 2015.

社会的共通資本:

「分権的市場経済制度が円滑に機能し,  
実施的所得分配が安定的となるような制度的諸条件」

社会的共通資本の供給水準基本原則:

## 市民の基本的権利の確保

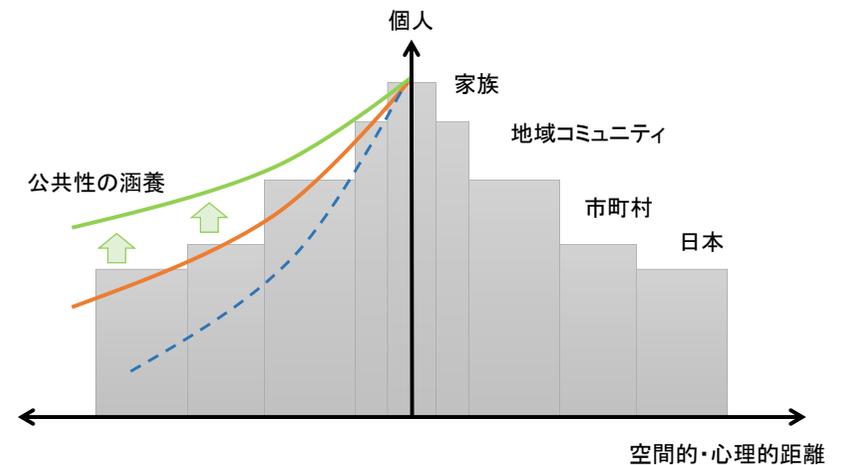
- ・基本的権利とは, 論理的な演繹を通じては求められない**社会的通念**により規定されたもの.
- ・混雑がある場合は内部化が必要であるが, 建設・管理費用に見合う必要はない.

その管理は**職業的専門家集団**によって, 専門的知見と職業的規律に従って管理される. フィデュシアリー (fiduciary) の概念, 効率性よりも社会的安定性, 公正, 平等が重要

最適蓄積水準: (B/Cのフレーム)

限界効用の測定に関しては, 新古典派の厚生経済学が想定しているような全く主観的な性格のものではなく, むしろ, アダムスミスの主張するように, 各人が第三者の立場に立った時にどのように感じ, どのような満足感を得ることができるか, を共感 (sympathy) することができるという**同感の可能性**を前提にしたものである.

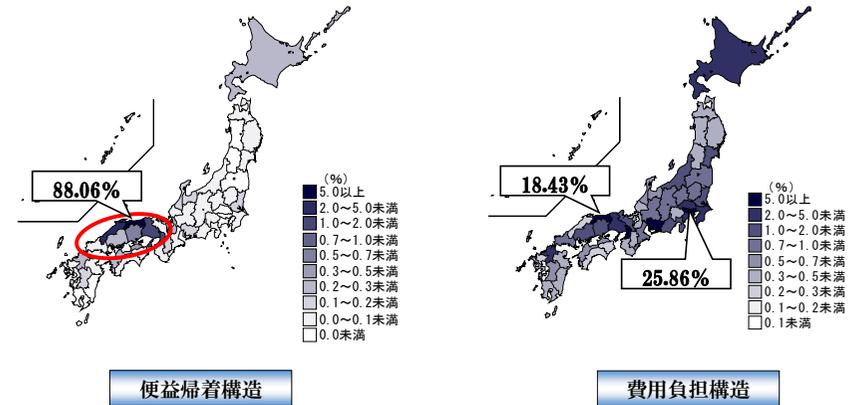
## Sympathy と Empathy



もう一度、B/Cを考えてみると、  
B/Cが1を超えているということは、  
シンパシーが前提である。

## 便益帰着と費用負担構造

鳥取県に政策を実施した場合



もう一度、B/Cを考えてみると、  
B/Cが1を超えているということは、  
シンパシーが前提である。

社会的通念へのアプローチ

公共性の涵養

風土に対する共感(シンパシー)

利己的に考えれば、 $B/C > 1$ でも成立しえない。  
B/Cを優先順位づけに用いてはいけない。

宇沢弘文先生の社会的共通資本を引き継ぎ

エンパシー → シンパシー  
市民 → 国民